

## 【農地整備課所管 事後評価審議資料】

### ○ ふるさと農道緊急整備事業【湯けむり下呂地区】

- ・平成27年度事後評価箇所表
- ・説明資料（パワーポイント）

# 平成27年度事後評価箇所表

担当課〔農地整備課〕

番号	2	事業名	県営ふるさと農道緊急整備事業 (湯けむり下呂地区)
事業実施箇所	下呂市(旧下呂町)	全体事業費	(当初2,675百万円) 7,427百万円
採択年度	平成5年度	完了年度	平成25年度
事後評価の実施基準	全体事業費3億円以上で、事業完了後概ね1年経過したもの		
事業目的	<p>本地区は、全国屈指の温泉地である下呂市東南部に位置し、大林・竹原・上原の集落内の農地を受益地としている。受益地は、一級河川乗政川、竹原川、輪川、門和佐川沿いに開けた水田及び畑地帯であり、振興作物として水稲、夏秋トマトが意欲的に生産されている。</p> <p>しかしながら、各集落から農業施設への生産物の搬入・搬出は、国道、県道の利用がなされているが、一般車の交通量が多く、農畜産物や生産資材等の円滑な運搬に支障を来している状況にあった。このことから、地域における幹線農道を緊急的に整備することにより、農畜産物や生産資材等の円滑な運搬に資することを目的としている。</p> <p>また、基幹農道「下呂中央地区」との一体的な整備を進めることにより、地域交通の円滑化を図り、各集落と下呂市中心市街地への路網を確保することで、農業集落の生活環境が改善され、さらには、国道41号及び国道257号の災害時、緊急時の代替道路としての役割も担っている。</p>		
事業概要	<p>農道延長 L = 4,946m、幅員 W = 5.5m (7.0m)</p> <p>主たる工種：道路工、舗装工、付帯工、橋梁工 等</p>		
概要図			

評価結果													
① 住民参加・協働による効果													
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業採択当初から地元による事業推進協議会が設立され、事業実施について地域の後押しを得た。</li> <li>・地元自治会（小川区、乗政区）による年2回の草刈を実施しており、地域の道という意識は高い。</li> <li>・ボランティア団体（地元企業）による農道周辺へのモミジ等の植栽と年2回の草刈を行っている。</li> </ul>												
② 事業効果													
<b>【費用対効果】</b> 事業効果の分析結果（B/C）は1.1であった。													
<b>【便益の具体的な内容】</b>	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>・食料の安定供給の確保に関する効果</td> <td>306,895千円</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>・農村の振興に関する効果</td> <td>651,464千円</td> <td>64%</td> </tr> <tr> <td>・その他効果</td> <td>56,663千円</td> <td>6%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,015,022千円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	・食料の安定供給の確保に関する効果	306,895千円	30%	・農村の振興に関する効果	651,464千円	64%	・その他効果	56,663千円	6%	計	1,015,022千円	
・食料の安定供給の確保に関する効果	306,895千円	30%											
・農村の振興に関する効果	651,464千円	64%											
・その他効果	56,663千円	6%											
計	1,015,022千円												
<輸送・移動時間の短縮> 下呂市街地 ⇄ 乗政集落 移動時間 17分(8.5km) ⇒ 11分(7.2km) <道路の利用状況> 計画交通量： 917 台/日 実測交通量： 2,589 台/日（調査日：H26.9.18） <農業構造の変化> 認定農業者数 64経営体(H16) ⇒ 69経営体(H26) [うち法人数 12経営体(H16) ⇒ 20経営体(H26)] 農地集積率 11.9%(H16) ⇒ 23.2%(H26) ぎふクリーン農業登録面積 77.9ha(H16) ⇒ 124.4ha(H26) <生活インフラの整備> ・市街地への買い物(69%)、下呂温泉病院(46%)、下呂交流会館(26%)等へのアクセス道路として利用 ※割合はアンケート結果（複数回答/回答者数） <観光への波及> ・観光等入込客数の増 (下呂温泉合掌村、いでゆ朝市、下呂交流会館) 32.4万人(H22) ⇒ 33.7万人(H26) <災害時の代替ルート>	・アンケートでは、迂回路が確保できて安心である旨の回答が複数あった。平成9年4月に災害による国道257号の通行止めが発生し、大きく迂回した経緯があり、災害時の代替ルートが確保された。												
③ 環境面への配慮													
	・植生基材吹付において、現地発生材を利用し、コスト縮減及び環境への配慮を行った。(再生材の使用)												

#### ④ 事業を巡る社会情勢の変化

##### < 観光農園等の開園 >

- ・観光農園や農産物直売所ができ、地域食材をホテルで使用するなど、温泉街と地域のタイアップも進みつつある。

(田上農園H19.7、栃本農園H13.7、いでゆ朝市H12.7)

##### < 生活インフラの整備 >

- ・病院やスポーツ文化施設など、沿線に整備された。

(県立下呂病院H26.5、下呂交流会館H21.4、高齢者介護施設H19.7)

##### < 地域への定住促進 >

- ・終点部に位置する三石地区は、ほ場整備や生活環境基盤の整備により、安全性・利便性が向上され、住みやすい環境が整った結果、人口に対する子供の割合が高い地域となっている。H27年度農林水産省「豊かな村づくり」では農林水産大臣賞に選考された竹原農地・水・環境保全会の活動の授賞理由の一つとなっている。

#### ⑤ 利用者・地域住民等への効果

##### 【利用者、地域住民等の意見】

- 関係集落の農家、非農家を対象にアンケート調査を実施し事業への意見の聞き取りを行った。

- ・アンケートの実施状況

配布枚数 572戸配布 ⇒ 335戸 (回収率59%)

- ・利便性の満足度 (アンケート結果)

農家 56戸 (17%) ⇒ 約8割が「便利」と回答

非農家 279戸 (83%) ⇒ 約9割が「便利」と回答

- ・その他意見

冬期の積雪・凍結対策の充実を求められる意見が多数あった。

また、紅葉時の行楽客が停車しているため危ないなどの意見があった。

#### ⑥ 対応方針 (案)

##### 【今後の事後評価の必要性】

今の段階では必要なし

- ・営農活動のみならず、農村地域の生活道路としても効果を発揮している。
- ・住民満足度も高い。

##### 【改善措置の必要性】

今の段階では必要なし

##### 【新規事業への留意点】

- ・コスト縮減を考慮しつつ、曲線や縦断勾配の緩和など利用者の利便性・安全性に配慮した設計に努める。
- ・事業着手時には、冬期の除雪や融雪剤の散布など維持管理の体制整備について検討しておくことが必要。

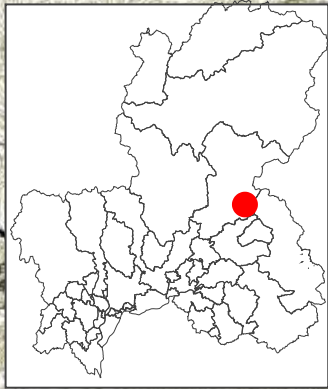
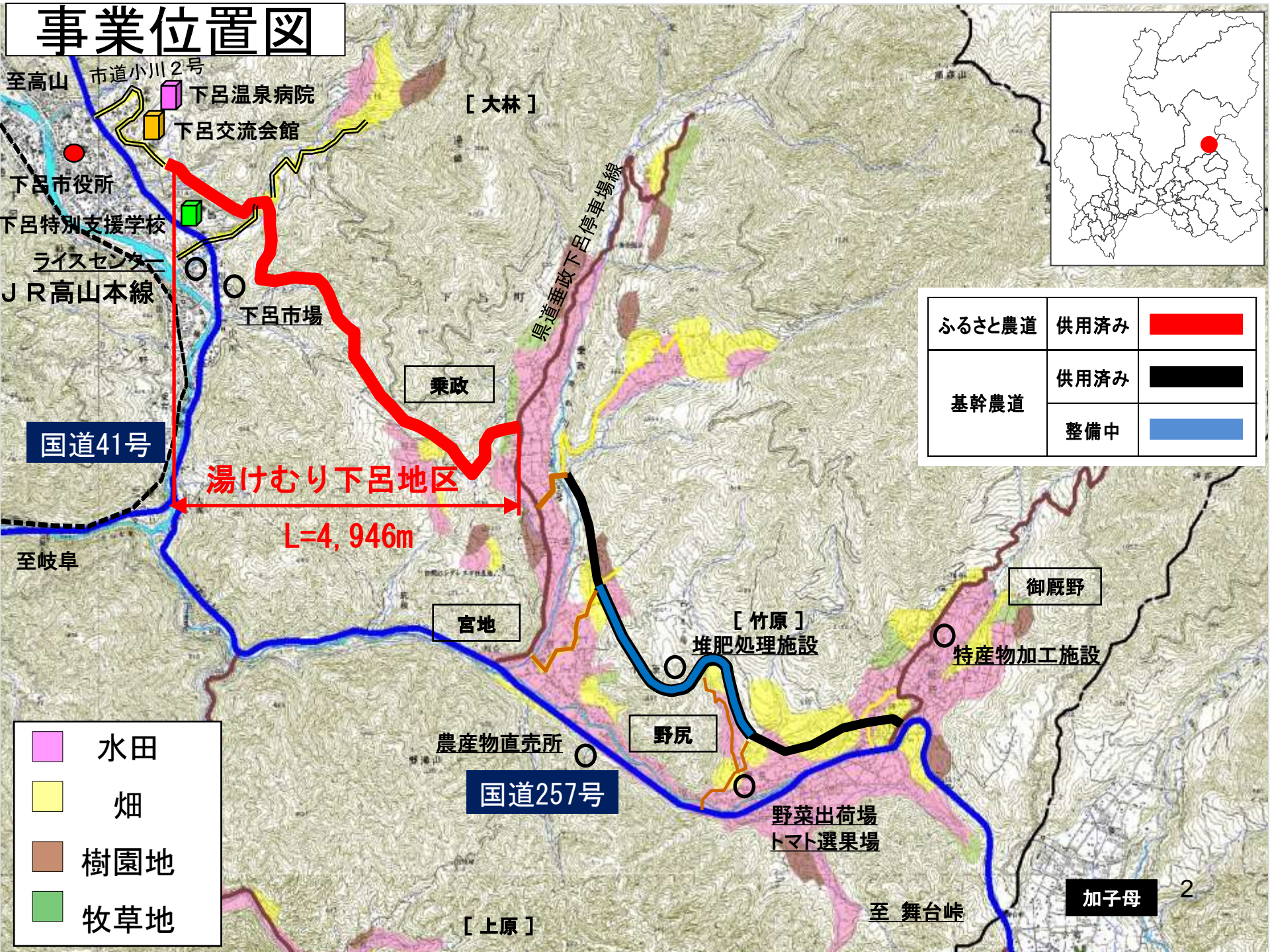
# 事後評価 県営ふるさと農道緊急整備事業 「湯けむり下呂地区」



農政部 農地整備課



# 事業位置図



ふるさと農道	供用済み	<span style="display:inline-block; width:20px; height:10px; background-color:red;"></span>
基幹農道	供用済み	<span style="display:inline-block; width:20px; height:10px; background-color:black;"></span>
	整備中	<span style="display:inline-block; width:20px; height:10px; background-color:blue;"></span>

**国道41号**

**湯けむり下呂地区**

**L=4,946m**

**国道257号**

- 水田
- 畑
- 樹園地
- 牧草地

乗政

宮地

野尻

[竹原]  
堆肥処理施設

特産物加工施設

農産物直売所

野菜出荷場  
トマト選果場

御厩野

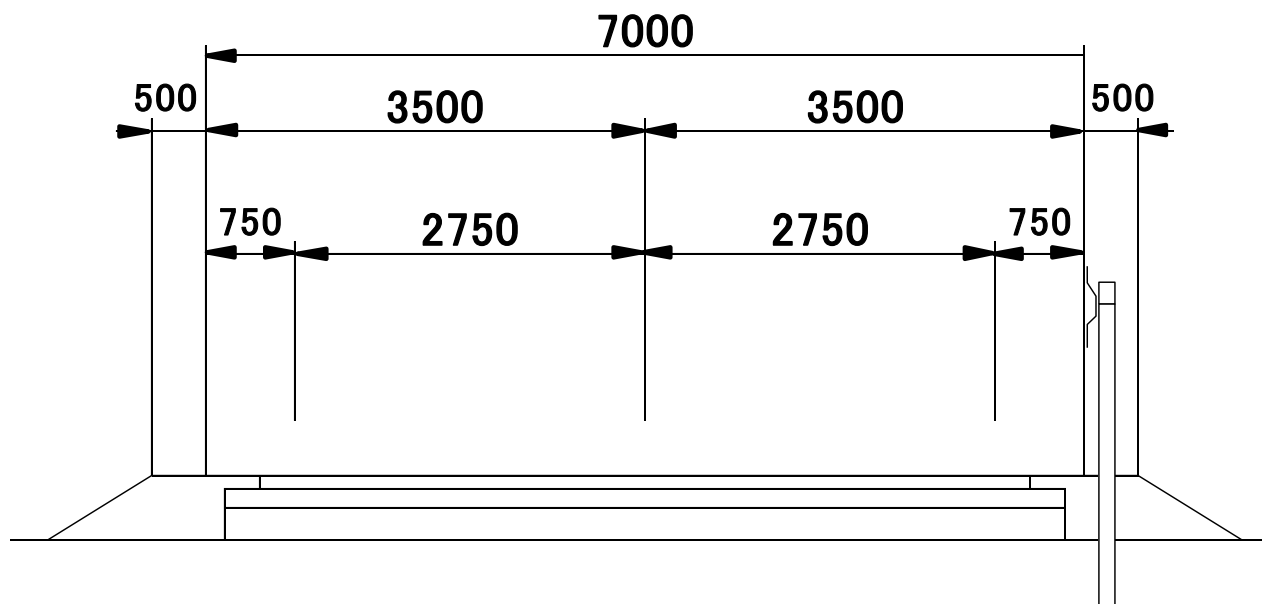
加子母



# 事業概要

総事業費	7, 4 2 7 百万円
受益面積	357ha(田230ha、畑104ha、樹園地等23ha)
事業量	4, 946m(橋梁3箇所)
幅員	7. 0m(車道5. 5m)
工期	平成5年度～平成25年度

標準断面図



# 住民参加・協働による効果

## 【地元の事業参加】



「下呂ふるさと・農免農道整備促進協議会」の活動

## 【住民協働作業(1)】



地元企業有志による農道沿線への植栽

## 【住民協働作業(2)】



地元企業有志による農道法面植栽と  
下草刈り

## 【住民協働作業(3)】

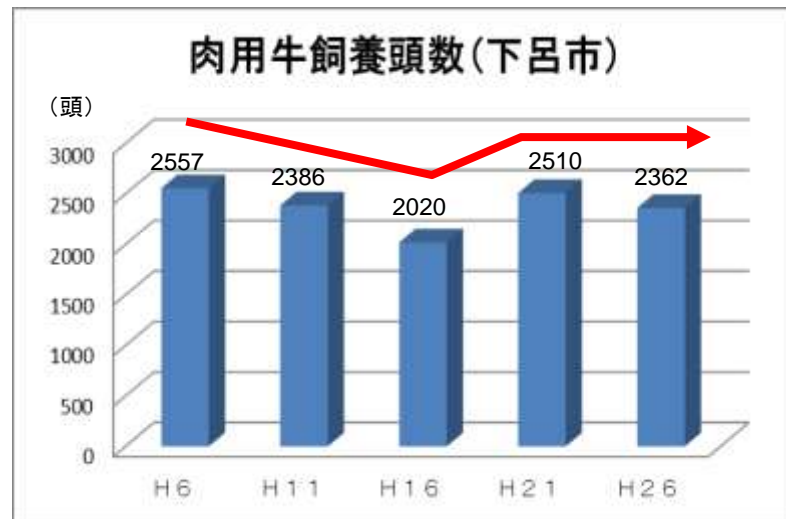
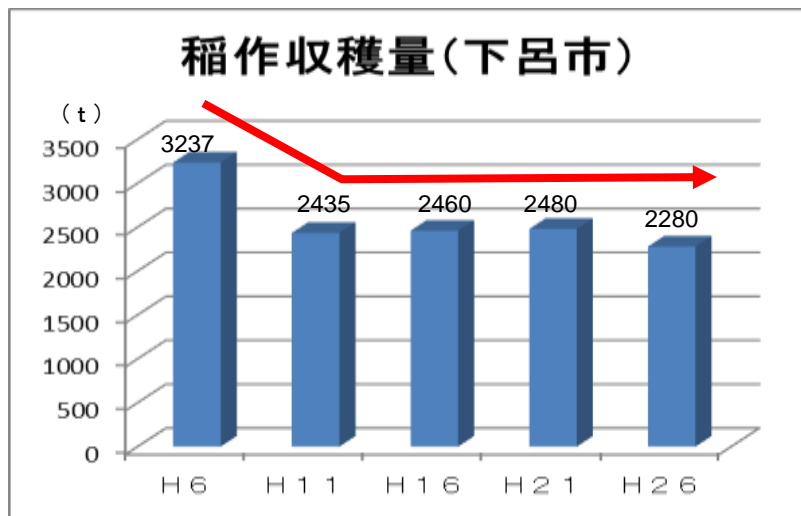


自治会（沿線住民）による下草刈り

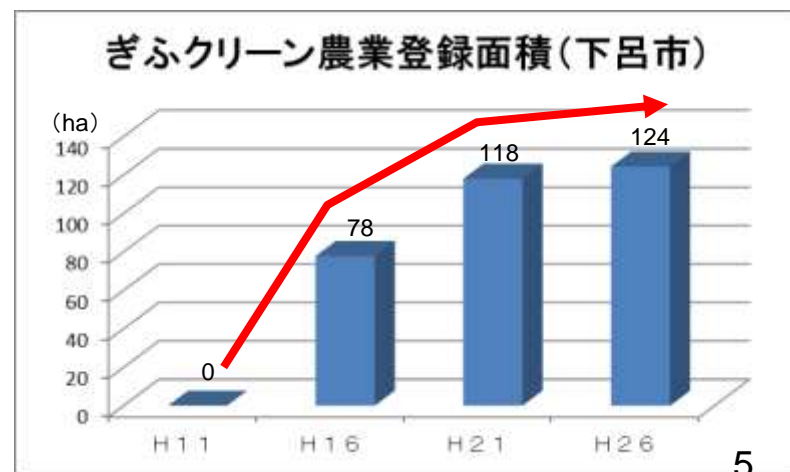
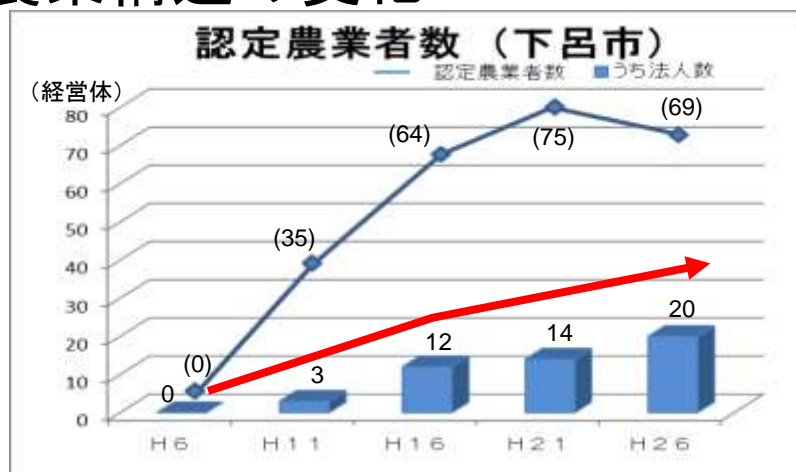


# 事業効果（１） 農畜産物生産等の推移

## ■ 農畜産物生産



## ■ 農業構造の変化



※平成11年度からの取組

# 事業効果（２） 営農活動における移動時間短縮

## 農産物輸送

○乗政内のお米など

7.2km

5.6km

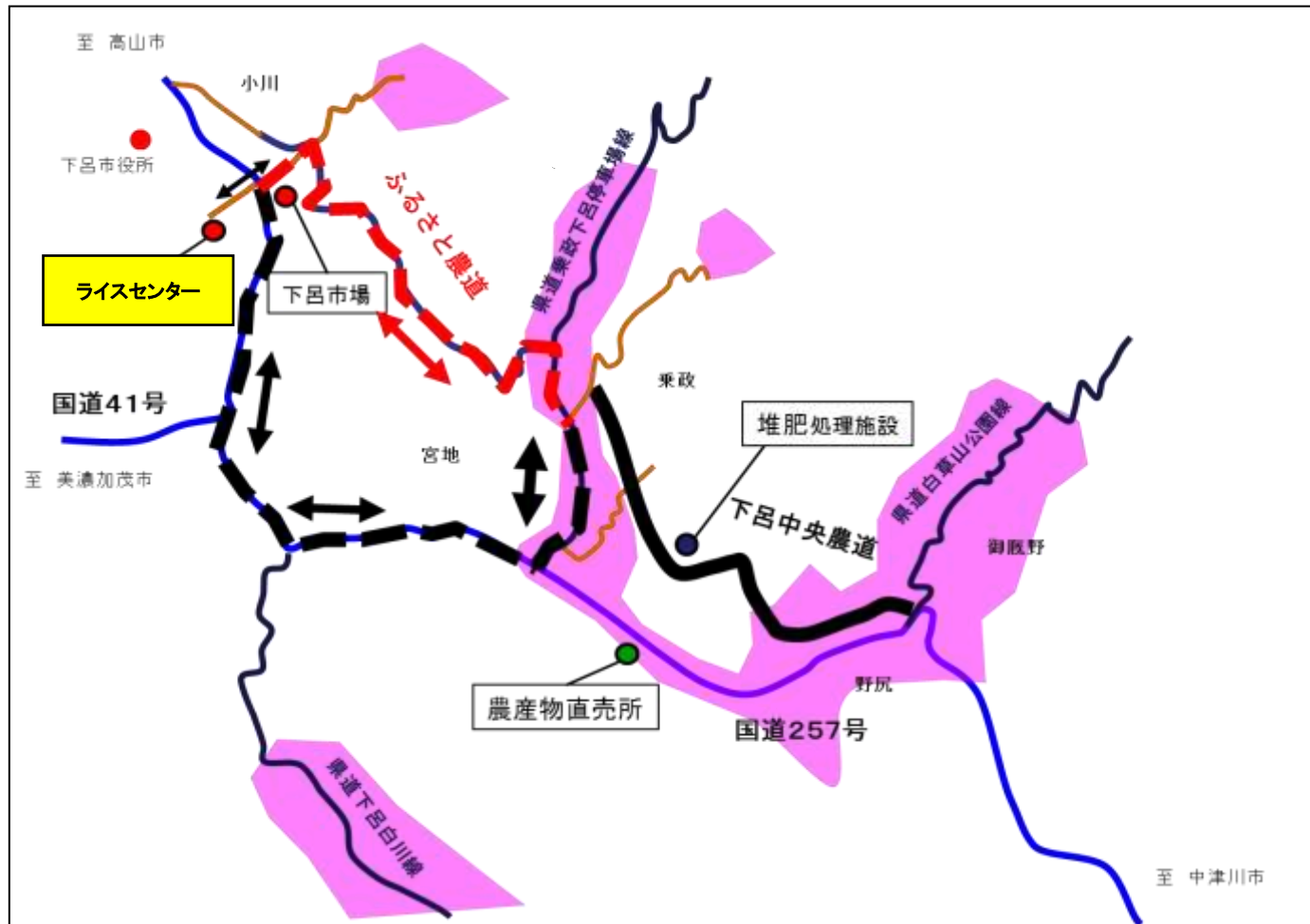
14分

8分

距離：1.6km

時間：6分

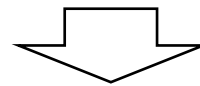
の短縮



# 事業効果（3） 防災・減災、救急医療対策



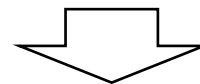
○平成9年4月5日に土砂崩れが発生。  
8日まで全面通行止め。  
下呂温泉を訪れる観光客や市民の生活  
に影響を与えた。



孤立集落の解消

○下呂温泉病院までの搬送時間の短縮

整備前	9.0km	18分	乗政→県道乗政下呂停車場線→国道257号線 →国道41号線→市道小川2号→下呂温泉病院
整備後	6.7km	10分	乗政→【ふるさと農道】→市道小川2号→下呂温泉病院



救急医療への貢献

農村の安全・安心の確保



# 事業効果（４）

## ■事業の効果

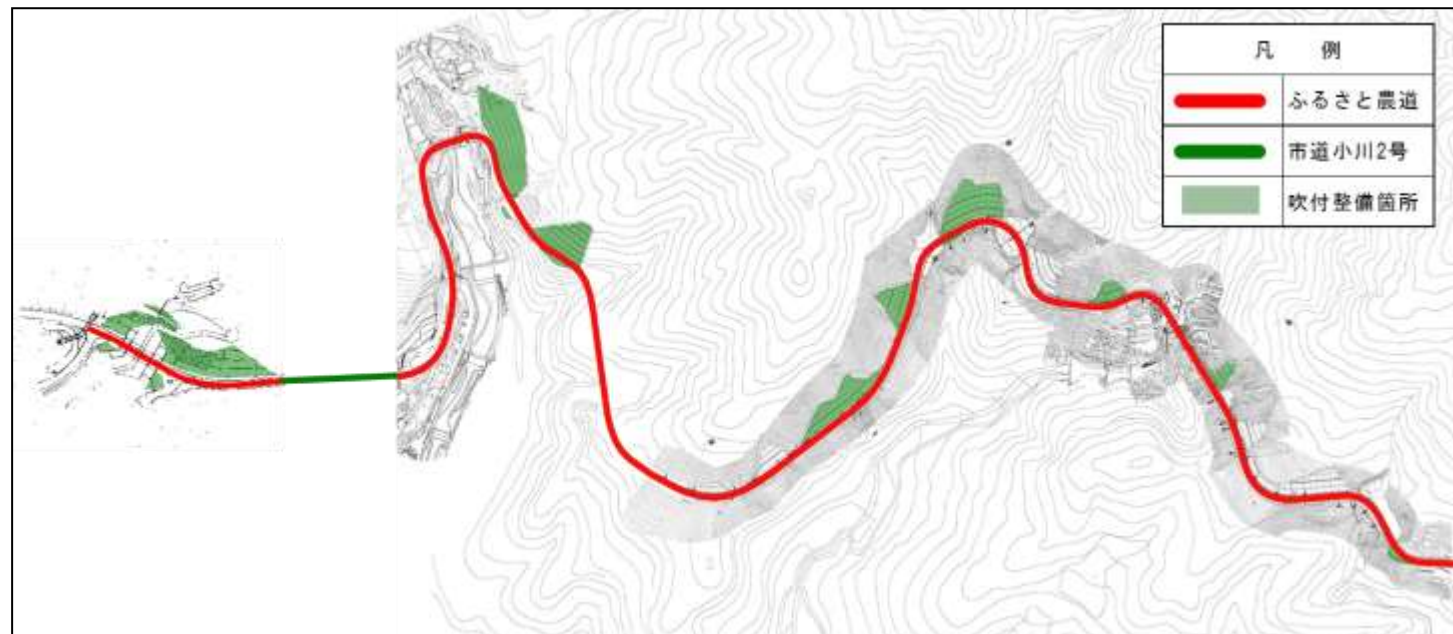
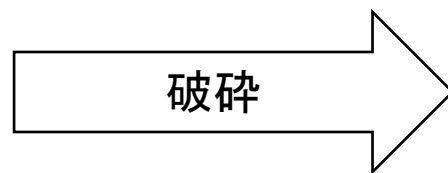
食料の安定供給の確保に関する効果	<u>効果全体の30%</u>
農村の振興に関する効果	<u>効果全体の64%</u>
その他効果	<u>効果全体の6%</u>

## ■投資的效果率

$$\frac{\text{効果額}}{\text{事業費}} = 1.1$$

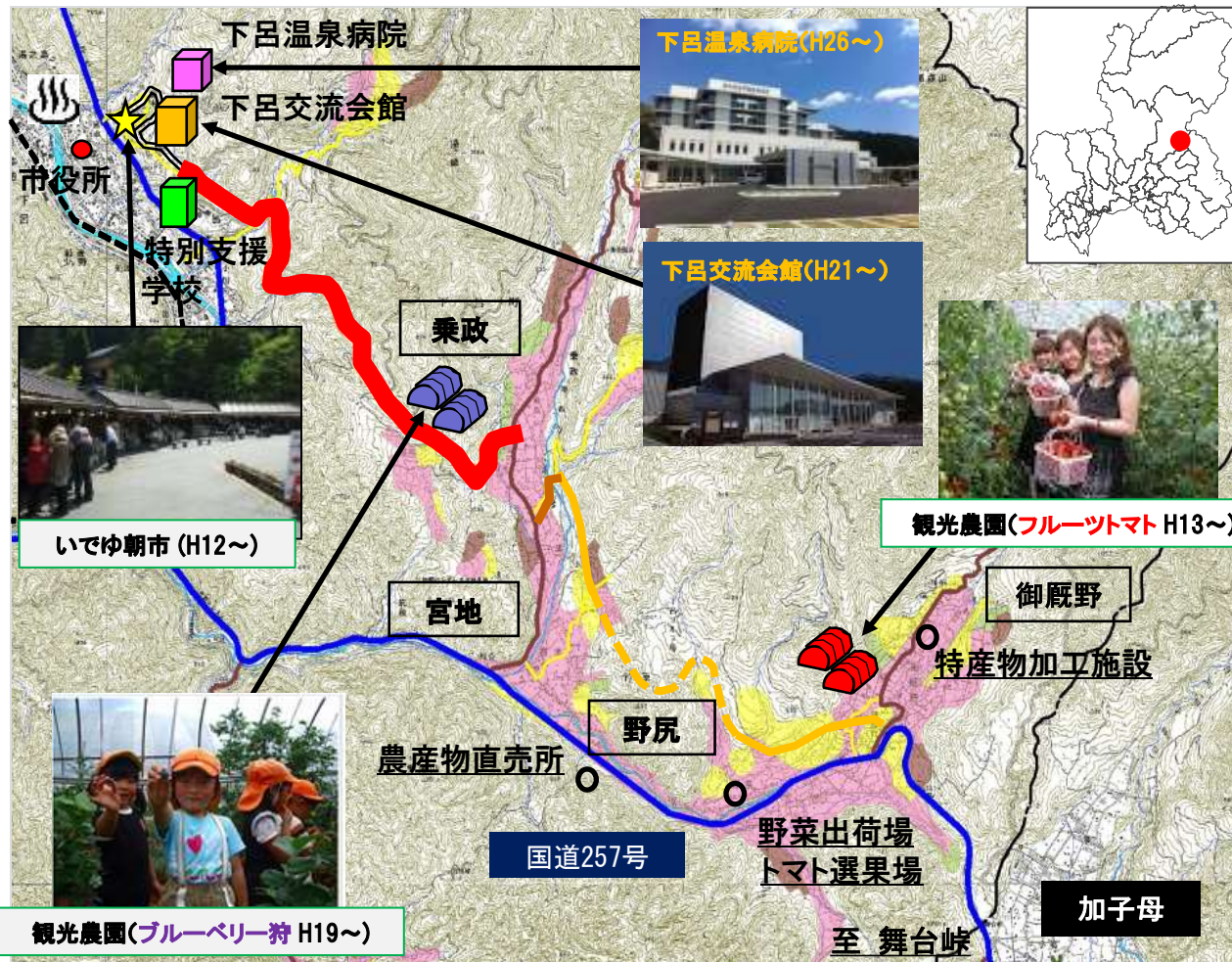
# 環境面への配慮

○植生機材吹付において、現地発生材を利用



# 事業を巡る社会状況等の変化（その1）

## ○観光農園等の開園、生活インフラの整備



下呂温泉病院  
H26. 5月に開設

下呂交流会館利用人数  
H21: 74,465人 →  
H26: 76,803人

農産物直売所売上  
(いいでゆ朝市・JA直売所)  
H6: 62百万円 →  
H26: 78百万円

観光農園入場者数  
(田上農園・栃本農園)  
H21: 4,334人 →  
H26: 4,700人

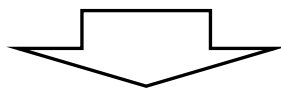
●市役所、病院等の公共施設への利便性の向上

●買い物・通勤や温泉地への農産物の供給、交流施設の活性化と交流人口の増加

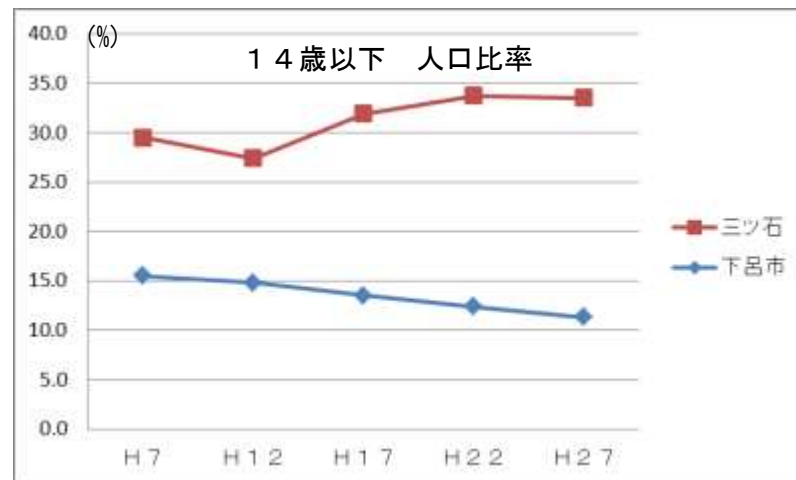


# 事業を巡る社会状況等の変化（その2）

○ふるさと農道終点部の乗政に位置する三ツ石集落  
総戸数36戸 人口176人のうち  
14歳以下の人口が39人【人口比22%】



- 下呂市全体（11%）に比べ11ポイントも高い。
- 3世代世帯も多く、若い夫婦が住みやすい環境。



三ツ石の児童

# 受益農家・地域住民への効果

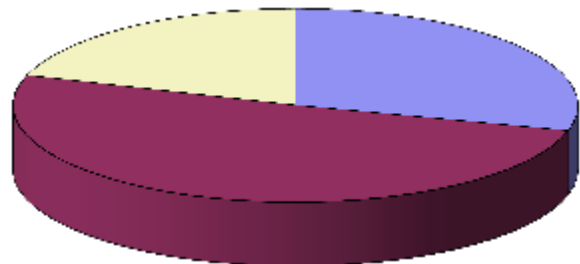
## ○アンケート結果

受益3集落572戸配布 ⇒ 335戸(内農家56戸)回収 (回収率59%)

### 【農業への効果】

あまり変わらない  
20%

非常に便利になった  
29%



便利になった  
51%

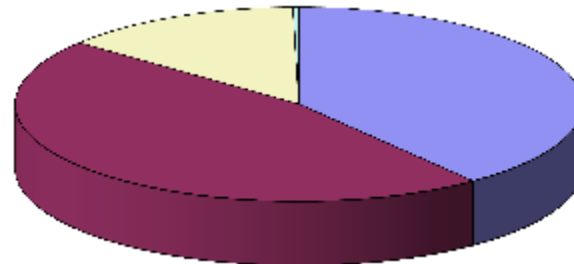
約8割の農家が満足

### 【日常生活への効果】

あまり変わらない  
14%

悪くなった  
0%

非常に便利になった  
40%



便利になった  
46%

約9割の地域住民が満足

## 【今後の事業評価の必要性】

「今の段階では必要なし」

- 営農活動のみならず、農村地域の生活道路としても効果を発揮している。
- 住民の満足度も高い。

## 【改善措置の必要性】

「今の段階では必要なし」

## 【新規事業への留意点】

- コスト縮減を考慮しつつ、曲線や縦断勾配の緩和など利用者の利便性・安全性に配慮した設計に努める。
- 事業着手時には、冬期の除雪や融雪剤の散布など維持管理の体制整備について検討しておくことが必要。